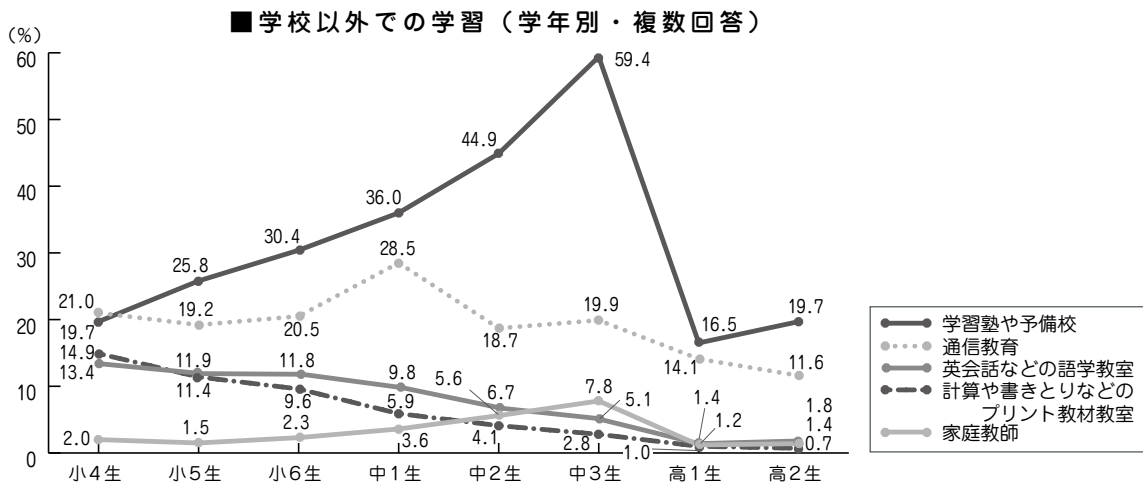


# 塾・習い事 ～第1回～ (全2回)

## 【1-1】中学生の通塾率、中3では約6割



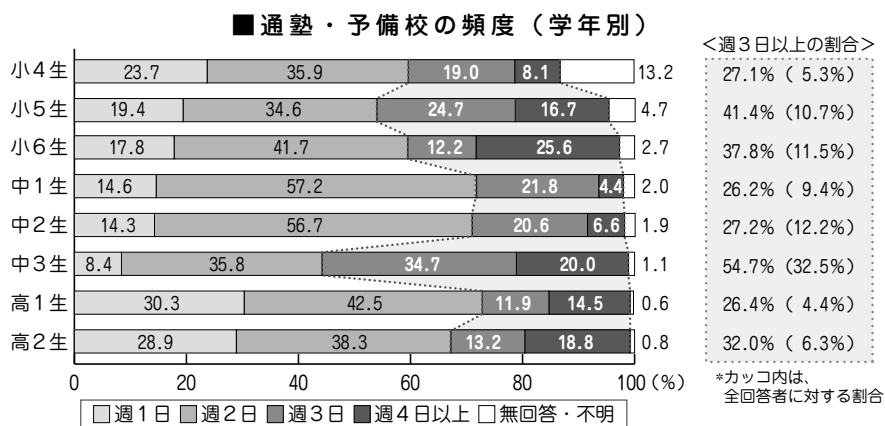
出典：「第1回子ども生活実態基本調査報告書」 Benesse 教育研究開発センター（2005）  
調査対象：小学4年生～高校2年生

学校以外での学習活動は、小学校、中学校、高等学校と学校段階によって大きな変化がみられる。小学生では、「学習塾や予備校」がやや多いものの「通信教育」「英会話などの語学教室」「計算や書きとりなどのプリント教材教室」などの利用がいずれも1～2割となっている。中学生になると、「学習塾や予備校」の利用が急増（中1生36.0%、中2生44.9%、中3生59.4%）し、中学生の約半数が通塾していることがわかる。高校生では、すべての校外学習の利用が減少。とくに「学習塾や予備校」の利用者が高1生16.5%、高2生19.7%と激減する。

小学校高学年から中学校にかけて「学習塾や予備校」の利用者が増え続けるのは、受験への意識が高くなっていくためと思われる。この時期、「英会話学校などの語学教室」「計算や書きとりなどのプリント教材教室」から、より受験に直結した「学習塾や予備校」へとシフトしていくものとみられる。

一方、高校で「学習塾や予備校」の利用者が大きく減少するのは、地方の進学校を中心に学校での受験指導が熱心に行われていることも1つの要因と考えられる。

## 【1-2】週3日以上通塾、中3生は30%超、高校生は5%



出典：「第1回子ども生活実態基本調査報告書」 Benesse 教育研究開発センター（2005）  
調査対象：小学4年生～高校2年生

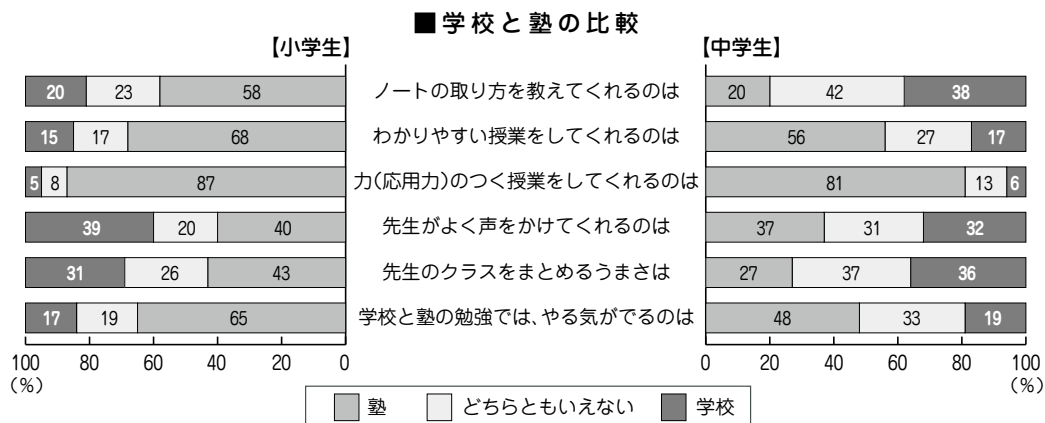
学習塾や予備校に通う児童・生徒が、その学習塾（予備校）に週に何日行っているのかをみると、小4生から中2生までは「週1日」「週2日」が合わせて5～7割と最も多い。中3生になると、「週3日」の割合が増え（34.7%）、「週3日以上」通塾する生徒が54.7%にもものぼる。高校生では「週1日」「週2日」の割合が再び7割（高1生72.8%、高2生67.2%）に増加する。

学習塾や予備校に行っていない児童・生徒も含めた全回答者に対する「週3日以上」の割合をみると、およそ3分の1（32.5%）の中3生は週3日以上通塾していることがわかる。一方、高校生の「週3日以上」の割合は高1生4.4%、高2生6.3%と低い値となっている。

中3生で通塾率（【1-1】参照）・通塾日数ともに増えているのは、ほぼ全員が高校受験に備えているからと思われる。小5生、小6生では通塾率の増加がそれほど大きくないが、全回答者に対する「週3日以上」の割合がそれぞれ、10.7%、11.5%と小4生に対して増加している。中学受験に備えた一部の子どもに通塾日数が増えているためと考えられる。

※データをご利用の際は、必ず出典（調査報告書名、刊行所名、刊行年）を明記してください。

【1-3】塾は「わかりやすい／力（応用力）のつく授業」が魅力？



出典：「2003年度 学習実態に関する調査結果」(社)全国学習塾協会(2003)  
 調査対象：学習塾に通う小学生・中学生

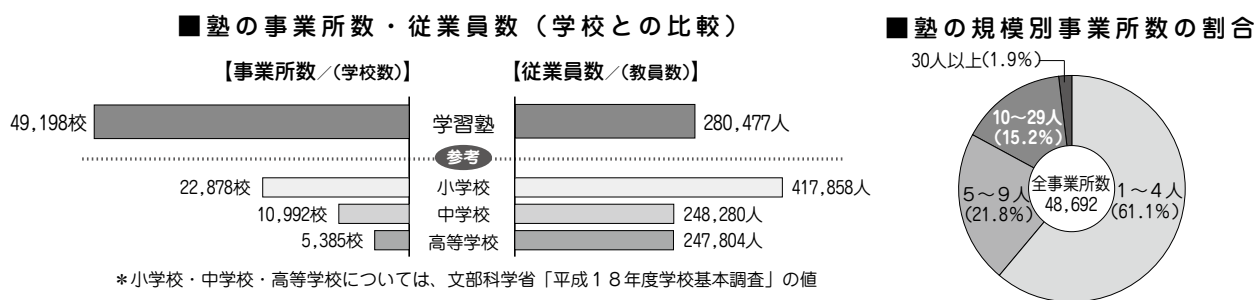
学習塾に通う小学生・中学生に、学校と塾を比べてあてはまると思うものを答えてもらった結果をみると、「わかりやすい授業をしてくれる」のは、小学生では15%が学校、68%が塾、中学生では17%が学校、56%が塾と答えている。「力（応用力）のつく授業をしてくれる」のも、小学生 [学校 5%、塾 87%]、中学生 [学校 6%、塾 81%] と、いずれも塾の値が高い。

これに対して「先生がよく声をかけてくれる」では小学生 [学校 39%、塾 40%]、中学生 [学校 32%、塾 37%]、「先生のクラスをまとめるうまさ」では小学生 [学校 31%、塾 43%]、中学生 [学校 36%、塾 27%] と、学校と塾の値に大きな差はない。

学習内容に関する項目で塾の値が大きいのは、回答者が通塾者であり、塾での勉強に期待を持っている子どもが多いためと考えられる。調査対象外に、学校の勉強に満足しているため、塾に通っていない子どもや、塾に通ったが、合わないのでやめてしまった子どもなどがいることも考慮すべきだろう。

興味深いのは「ノートを取り方を教えてくれる」が、小学生では圧倒的に塾（学校 20%、塾 58%）であるのに対し、中学生では学校 38%、塾 20%と逆転していることである。年齢の違い、学級担任制・教科担任制の違いもあり、一般に小学校よりも中学校のほうがノートを取り方を詳しく指導することが多いのだろうか。一方、小・中学生をともに教える塾では、先取りして指導しているケースが多いのではないかと推測される。

【1-4】学習塾は 49,000 校、小・中・高校の合計より多い



出典：「平成16年サービス業基本調査」総務省(2004)  
 「平成18年度学校基本調査」文部科学省(2006)  
 調査対象：全国

学習塾の事業所数は約 49,000 校と、小学校・中学校・高等学校の合計約 39,000 校よりもはるかに多い。一方、学習塾の従業員数は 28.0 万人と、中学校の教員数よりもやや多く、小学校・中学校・高等学校を合わせた教員数 91.4 万人の約 3 割となっている。

塾の規模別事業所数の割合をみると、「1~4人」が 61.1%、「5~9人」が 21.8%と 10 人以下の事業所が全体の 8 割を超えており、個人経営の塾など、小規模な塾が大半を占めていることがわかる。

子どもの教育を考える上で、事業所数からみても、塾は無視できない存在になっている。一方、規模の面からみると、経営基盤が必ずしも安定していない塾があることも推測できる。